

17 歯科衛生士学科学生の嗜好飲料類摂取状況

○平澤明美, 小黒 章

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 嗜好飲料, 歯科衛生士学科学生, 清涼飲料

はじめに

本学歯科衛生士学科学生の食生活の現状に臨地・臨床実習が大きく影響している。今回は、う蝕との関係も深い嗜好飲料類摂取状況について報告する。

対象および方法

対象：明倫短期大学歯科衛生士学科の平成12～21年の1年と、栄養指導の授業を実施した2年または3年の学生1083名。方法：質問紙調査法による無記名・選択式で、調査年の5または6月に実施した。統計解析：正規近似式による比較検定を用いた。

結果および考察

1. 嗜好飲料類摂取の学年間比較

嗜好飲料類を毎日摂取する者の割合は、1年生と2または3年生の間に平成13年は $p < 0.05$ 、平成19年は $p < 0.01$ の有意な差が見られた。しかし10年間を通しては学年間に差は認められなかった(図1)。

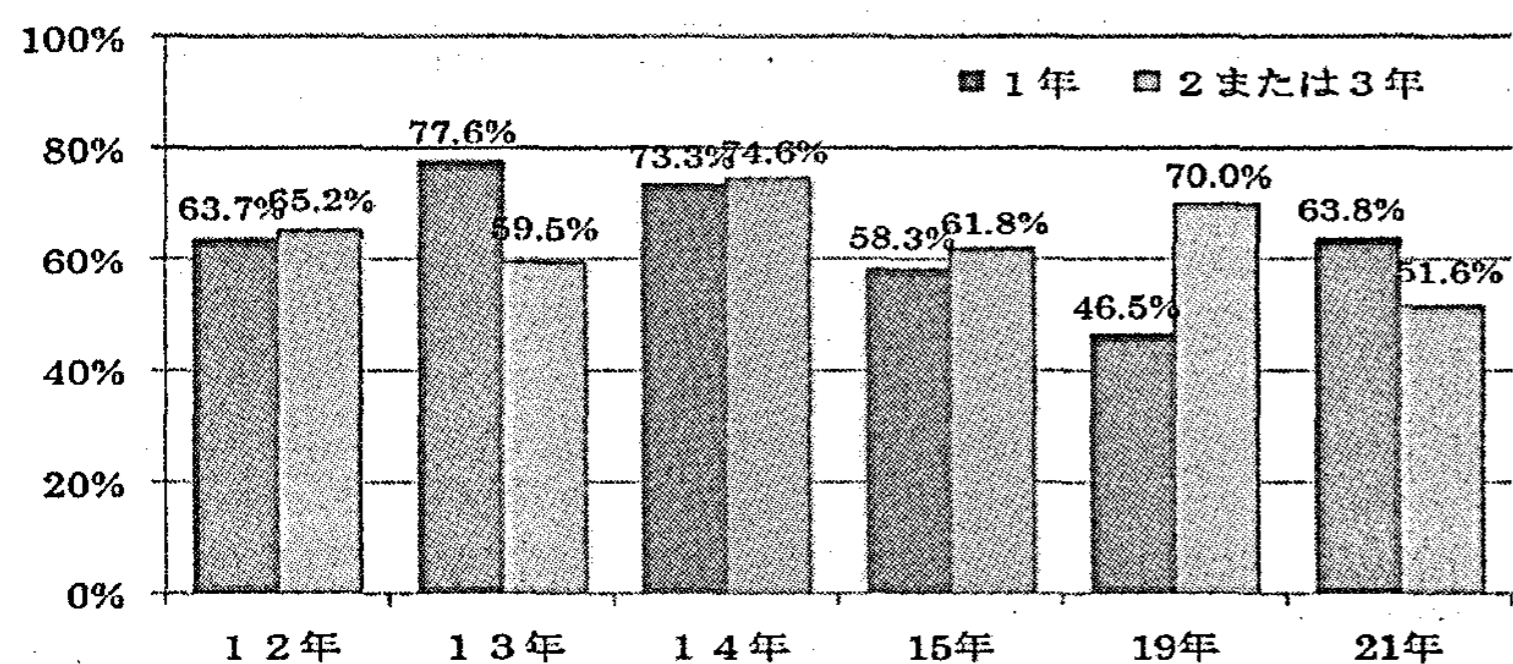


図1 嗜好飲料類摂取の学年間比較

2または3年生は臨地・臨床実習中の学生であり、1年生とは生活時間の違いはあるが、習慣化した嗜好飲料類の摂取に影響しないと考えられる。

2. 飲料の選択嗜好

選択する飲料は、お茶類が最も多く(H12:85.0% H21:76.8%)次いでジュース類、乳・乳製品であった。平成12年と21年では、炭酸飲料とその他の飲料(ミネラルウォーターやスポーツドリンクなど)の摂取が増加傾向にみえるが、統計的な差は認められなかった(図2)。

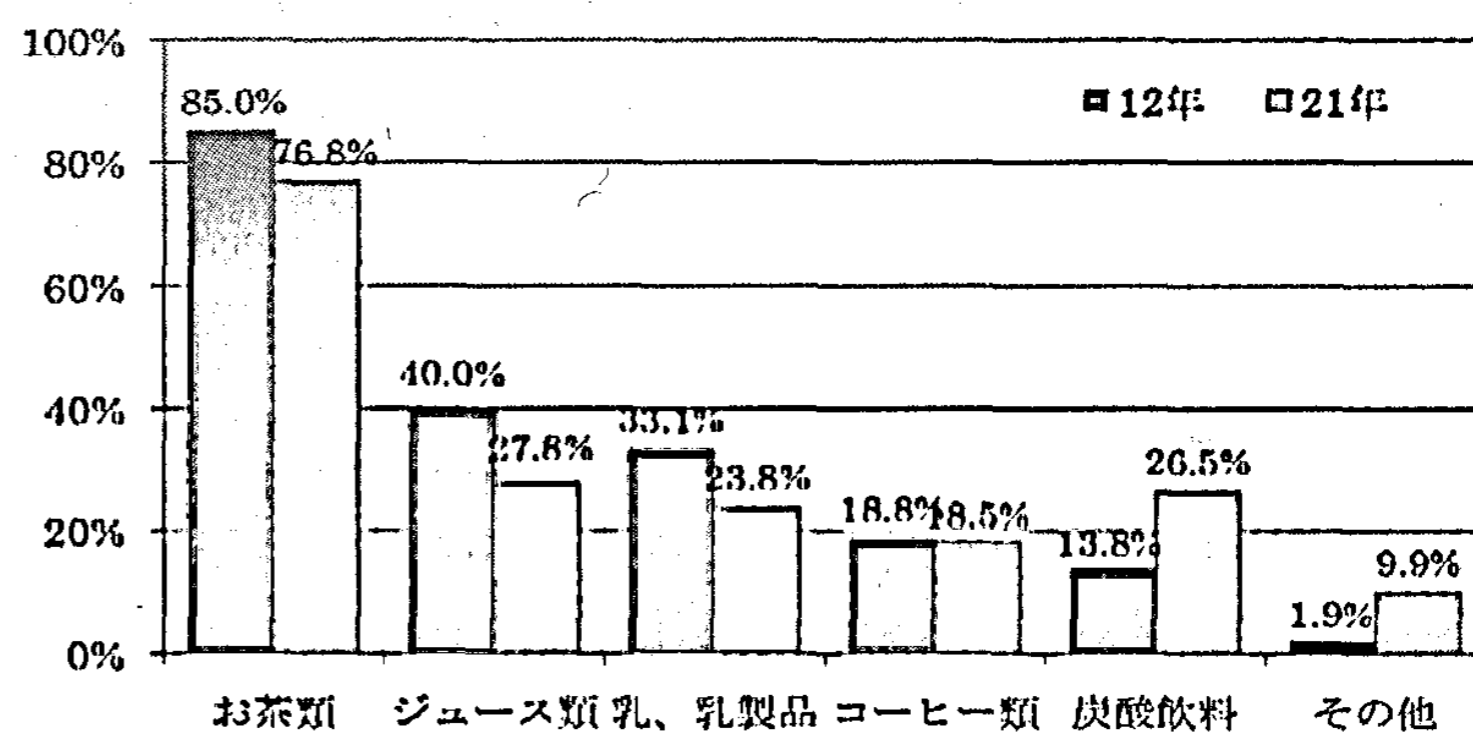


図2 飲料の選択嗜好

調査開始年(H12)は、我が国の清涼飲料品目別生産量で緑茶飲料などの爆発的な伸びが始まった年であり、お茶の生産量は現在も増えている。また、ミネラルウォーターの生産量が増加し、無糖または低カロリー飲料などの多様な嗜好飲料が生産されている。それは本学学生の嗜好にも影響していると考えられる。

まとめ

本調査より、嗜好飲料の摂取は習慣化しており、選択する飲料は品目別生産量に類似していた。食生活指導の観点から嗜好飲料類について継続的に調査・検討を重ねたい。